

栄 さかえ小 ニュースレター

桜学園研究発表会

11月7日（木）に、本校では「自ら学ぶ意欲をもち、考えを深め合う児童生徒の育成～課題設定と単元構成の工夫を通して～」という桜学園の研究テーマのもと研究発表会を実施しました。この2年間、教職員は授業の質を高めるべく日々研究を進めてきました。その成果を、つくば市教育局や他校の先生方に見ていただく貴重な機会となりました。

特にこの半年間は、研究の集大成に向けて、教職員が精力的に準備に取り組みました。授業案の作成から試行、改善、そして校内研修や研究授業を繰り返し行い、より良い授業の構築を目指しました。担任をはじめ、多くの教職員が日々遅くまで熱心に活動し、その努力と情熱が子供たちにも伝わり、学びへの意欲を引き出す原動力となりました。

発表会当日は、子供たちが自らの考えを積極的に発表し、友達と意見を交わし合いながら課題に取り組む様子がたくさん見られました。授業の中で見られた活発な対話や協力の姿勢は、単なる学びの場を超え、子供たちが互いに刺激を受け、成長していく過程を表していました。参加いただいた先生方からも「子供たちが主体的に考え、活動する姿が素晴らしい」「授業の構成が工夫されており、学びの深まりが見られた」との高い評価をいただくことができました。

今回の研究発表会を通じて得た多くの学びや気づきは、これからも授業を行っていく上で、大きな財産になったと思います。これからも教職員一同、子供たちの学びをさらに豊かにするために研鑽を重ね、より良い教育環境を提供してまいります。

1年2組の算数では、学校の航空写真をもとに、体育館や校庭などの長さを比較するための方法を、隣の友達とのペア活動で考えていました。ブロックやおはじき、担任が用意した「ひみつボックス」の中の目盛りテープを使いながら、「いくつ分だから、こっちが長い」など間接比較法のやり方への理解を深めていました。



2年1組の国語では、園児に昔話の面白さを伝えたいという課題を設定し、読み聞かせや寸劇、動画作成など、グループで考えた発表方法での準備を行っていました。他のグループに発表を見てもらい、互いにアドバイスをし合うことで、発表がより分かりやすくなるように、工夫・改善をしていました。



4年1組の国語では、新見南吉の名作である「ごんぎつね」の読み取りを行っていました。中心人物であるごんと兵十の気持ちの変化を読み取るために、グループで何度も考えを伝え合ったり、毎回「ごんぎつね日記」を書き、それをタブレット端末上で皆と共有したりすることで、ごんと兵十の心の距離について思考を深めていました。



5年2組の理科では、流れる水のはたらきを調べるために、グループごとに方法や手順を考えて実験に取り組んでいました。撮影した動画を活用しながら、水量の違いや、カーブの内側と外側での砂の削られ方の違いを注意深く確認し、実際の川の地形と結び付けながら、浸食のはたらきについてまとめていました。



6年1組の理科では、一人1実験で、モバイルづくりに挑戦していました。てこのきまりを活用して作成した設計図をもとに、一人ペア、グループと自分のスタイルに合わせて作業を進めていました。理想通りにはバランスが取れず苦戦している様子も見られましたが、全員が世界に1つだけのモバイル完成を目指し頑張っていました。



あおぞら・たいよう学級では、博士からのミッションという形で、プロジェクト型学習に取り組んでいました。話の聞き方や楽しく遊ぶための工夫について、どちらの学級でも上級生がリーダーシップを発揮しながら、下級生をしっかりと引っ張り、ミッションクリアに向けて意欲的に活動に取り組んでいました。

